

共催事業報告

「教派神道六派特立一三〇周年」記念公開シンポジウム

1882（明治15）年は、神道教派7教派が特立した。神道教派のうちもっとも特立が早かったのは1876年の黒住教と神道修成派の2教派であるが、それに次ぐのがこの7教派である。こうなったのには理由がある。詳しくは拙著『教派神道の形成』（弘文堂）を読んできたいが、ともかく2012年はこれら7教派のうち、6教派にとって特立130周年にあたる年となる。7教派ではなく6教派となるのは、1882年に特立した教派のうち、神宮教は1899年に財団法人神宮奉賛会となったので、のちのいわゆる神道十三派に含められないからである。

当初は個々に教派が記念事業をやる予定であったようだが、合同でやったらいかがでしょうかと提案したら、そのように企画が進んだという経緯がある。そして出雲大社教、御嶽教、実行教、神習教、神道大成教、扶桑教の六教派で神道六教派特立百三十年記念事業実行委員会を組織し、記念事業が2012年6月5日に國學院大學で開催された。國學院大學の前身である皇典講究所の設立とこれらの教派の特立には深い関わりがある。この年に一派特立した教派の一つの扶桑教の創設者は宍野半であるが、彼は皇典講究所の設立にかかわった人物でもある。そうした関わりもあるので、この記念事業は研究開発推進機構の共催とした。

記念事業の趣旨は、実効委員会により作成されたパンフレットに次のように述べられている。

「私共神道六教派は明治一五年五月に特立を受け本年特立一三〇年の佳年を迎えました。記念となる年にあたり、立教の精神と先

人達の思いを改めて心に刻みつつ、未来に向けて教派神道の役割と将来を展望する機会と致したく、六教派合同で記念シンポジウムを開催する運びとなりました。」

「神道六教派特立百三十年記念公開シンポジウム」と記念式典は、常磐松ホールで行われた。またその後有栖川宮記念ホールで祝賀会が催された。以下には記念シンポジウムの概要を紹介しておく。

基調講演は私が「二十一世紀の教派—百三十年を踏みしめて」というタイトルで行った。私はまた引き続き行われたシンポジウムのコーディネーターも務めた。

基調講演では明治期の神道教派の形成の事情、その後の展開、そして二一世紀の課題といったことに触れた。なお講演の内容は記念会が作成したDVDに収録されている。またそれをもとに若干手を加えたものが『國學院大學研究開発推進機構紀要』第五号に収録されている。

パネルディスカッションでは、神習教管長の芳村正徳氏が「教派神道と人生儀礼」、また御嶽教管長の村鳥邦夫氏が「教派神道と自然崇拜」と題して、それぞれ発題を行った。芳村氏は教派神道と葬儀（神葬祭）との関わりなどについて言及した。また村鳥氏は、昨今の「山ブーム」に言及しながらも、本来の厳しい山岳修行の意味について触れた。その後、コーディネータの私が加わり、3人で討議がなされた。

なお、式典の様子等は『研究開発推進機構ニュース』6-2に紹介したので、割愛する。

（井上順孝）